

平成 25 年度

事業所名：グループホーム 太陽荘（虹ユニット）

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	372200410		
法人名	有限会社 快互		
事業所名	グループホーム 太陽荘（虹ユニット）		
所在地	矢巾町大字又兵衛新田第5地割28番地2		
自己評価作成日	平成 25年 9月 11日	評価結果市町村受理日	平成26年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0372200410-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 25年 10月 25日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○ご利用者一人ひとりのペースを大事にしたケアを実践できるように努めている。
○矢巾町主催の行事や保育園・幼稚園・児童館等との交流を通して地域との繋がりを深めるように努力している。
○各月の音楽療法や定期的な外食行事を実施し、心身の活性化に繋げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

矢巾町の平野部の田圃や住宅の点在する地域にある3ユニット(25人定員)のグループホームである。各ユニットは法人の理念である「人としての尊厳を守り、地域との共生と自己実現を目標とする」理念の下に、「和」「笑」「輪」「私」「話」「地域」をキーワードとして、利用者一人ひとりの思いや願いを叶えさせる支援・ケアの向上に努めている。特に音楽療法により、コミュニケーション力の向上や食事が進み生活に張り合いが出てきているなど心身の活性化と穏やかな生活の実現に結びついている。また、矢巾町地域包括支援センター、矢巾町の町民を対象とした認知症啓発事業に参加して事業所紹介ブースを設置し、或いは、事業所主催の「太陽祭」に多くの来場者があるなど、地域交流事業にも積極的であり、地域からの信頼も年々厚くなってきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

平成 25 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 太陽荘（虹ユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	太陽荘独自の「和」を基調とした理念を作り上げ、ユニット毎に見える場所に提示し、理念の共有に努め、日々のモチベーション向上に繋げるよう取り組んでいる。	理念「地域の中に太陽荘の花を咲かせます」下に、「和、笑、輪、私、技、話、地域」の7つの漢字をキーワードを理念としている。運営や利用者の状況等に応じて、それぞれに努力目標を設定しながら具現化に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の園児や学生など幅広く交流をしており、町主催の行事や祭り等へも参加をしている。近隣住民とは避難訓練等への参加や、花や野菜等の差し入れなども頂いている。	地域の保育園や福祉の学生等との定期的な交流のほか、町内行事では役員を引き受けるなどの積極的な姿勢が、ホームへの関心や注目を呼び、地域住民からの信頼につながっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会にて認知症等の講演に、地域の方々にも参加いただいている。また、夏祭りでは施設の開放を行い、地域からの参加や協力を得ながら認知症を理解してもらえるような取り組みを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催しており、入居者の状況や活動状況・課題等を報告し、意見や指導を頂いている。内容については会議で職員に報告し、サービス向上に役立てられるよう話し合い、ケアに役立てている。	会議のテーマに応じて警察等外部から話題提供を受け 意見交換等を行っている。また年に一度、意見等に対する「その後の経過」を報告するなど取り組みが目に見える会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他、介護保険担当者と訪問や電話等で連絡を取り合いながら、助言や指導を頂き、運営やケアに活かしている。	町が「介護の日」に普及の一環として実施した認知症ケア啓発事業にキャラバンメイトとして参画し、また認知症サポート養成講座に協力したほか、要被支援者に対するケアについて相談に応ずるなど、町と連携しながら対応している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が荘内外での研修を受け、拘束がもたらす弊害を理解し、身体拘束廃止委員会を設け、拘束をせずに行うケアを話し合い、実践している。	歩行不安定で転倒の恐れのある方に対するケアの方法がどんな方法が最も良いか考えるなど、ケアの向上に結び付け身体拘束の無いケアを行っている。なお身体拘束廃止委員会を設け必要に応じて開催し適切な対応を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	荘内外にて研修を受けたり、入居者が安心して生活が出来るよう話し合い、不適切なケアの段階で虐待の芽を摘み取る事が出来るよう努めている。			

[評価機関：特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を受けているご入居者がおり、常日頃から話し合いを行ないながら理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談から契約に至るまで、密に連絡を取り合いながら説明・納得していただいている。改定・解約についても十分に説明し、随時疑問・質問を受付理解して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートや面会時等に得た要望や意見をカンファレンスや全体会議で取り上げ、運営に活かすよう努めるとともに結果等については運営推進協議会や家族会等で報告し、意見交流の場を設けている。	家族会においてケアプラン作成会議への参加意向や、職員への印象等について意見を聴いているほか、ホームの特徴である訪問診療ドクターと週1回の訪問看護の来訪など、医療連携体制が確保されていることを説明する機会を持っているなど、家族の安心につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・リーダー会議・全体会議等で職員の意見や提案を話せる機会を設け、運営に反映させている。	日常的ケアに関する話題はそれぞれのユニット会議で改善提案等なされ、ユニット間調整、事業調整等各段階の会議で協議されており、忌憚のない意見が提案されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ヒアリング等を通し、各希望を的確に把握し、モチベーションを維持出来るように努めている。待遇改善に配慮しながら楽しくやりがいを持って仕事に取り組めるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修の他、外部研修や各資格所得に向けた研修を取り入れながら、参加出来る機会の確保もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や町の連絡会、他施設との交換研修を通し、ネットワーク作り・意見交換等を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談・本人希望による見学等を実施し、ホームの雰囲気を感じてもらい不安が生じないように柔軟な対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	あらゆる機会を捉えて、家族の不安や困りごと・要望等を汲み取れるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容から求めているものを見極め、サービス全般について話し合いをしている。場合によっては他のサービスの情報提供等も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や片付け・掃除等は入居者と共にし、味付けや包丁裁きなど教えて頂いている。また、入居者同士にて声を掛け合うなどの関係も見られている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時・月一回の近況報告の手紙・家族会・各行事の他に電話等で様子を知らせると共に家族からの以降も聞き協力し合いながらケアをしている。また、何でも話し合える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人が面会に来てくださったり、外泊・外出等も支援も支援している。家族との外出の他、自宅に行った際は近隣の方へも声をかけ昔のエピソードをお聞きしながら、その時々を思い出して頂けるよう支援に努めている。	知人友人の来訪、馴染みの理美容院を継続利用しており関係が途切れないよう支援に努めている。今後の展望として、耕作地を確保し、昔とった杵柄を発揮しながら、栽培を通じた近隣住民と井戸端会議を盛んにし、日常的にも庭先や軒下交流につなげるよう創意、工夫に努めたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士が楽しく会話しながら手伝いが出来るように席位置に配慮する等の空間にも配慮している。皆で楽しく過ごせるようにまとめ役の入居者に声かけをいただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談等を受付、面会へ伺うなどして関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時などの一対一になれる時間を大切にし、日々の会話から本人の意向を引き出し会話の様子記録に残している。また、表情や態度から思いを察しケアにあたっている。	「居心地の良い、安心できる生活」を最大の目標にして会話や表情、態度からの意向等を把握している。「何かお手伝いすること無いですか」等の質問形式の会話として、話し始めたら途中で止めないように心がけている。	理念のキーワードの一つに「話」があることから、傾聴等についての工夫等をされ更なる改善(個人ごとに対応が異なる場合があることを含め)について検討されることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報やセンター方式の活用・家族からの情報を元に生活歴や馴染みの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の行動や発言等を記録に残すようにし、情報の共有を行っている。カンファレンスの際にはその情報を元に現状の把握や今後の支援に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにて、家族・訪問看護・主治医などの助言も参考にし、職員間で意見・情報交換を行い、入居者一人ひとりの目線に立った介護計画を作成するように努めている。	その人なりの健康を保ちながら、トータルの満足して暮らせるよう、暮らし全般からモニタリング、アセスメントを行い、ユニット計画担当者が計画作成している。家族からの意見等も検討のうえ計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録では、介護計画と連動するように記入を行い、その他にも連絡ノート・申し送り板を活用し、職員間で情報を共有し介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット毎に温泉や外出などに出かけている。入居者や家族の希望を聞き取り、通院介助が困難場合には、介護タクシーを利用するなどその都度、希望に沿った対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前から利用している近隣のかかりつけ医にいくなど支援している。また、地域での行事にも出向き馴染みの方との親交も深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護職員による入居者の健康面についての繊細な記録により、全職員が周知している。訪問診療を受けている方もあり、必要に応じホームでも通院対応を行い、結果を家族へ報告している。また、家族との通院時も情報を手紙にて報告している。	医療受診は本人・家族の希望を大切に、また家族による通院を原則としているが、事情がある際には職員が同行している。受診時には、適切な診療が受けられるよう暮らしや症状等の情報を提供し、受診後については、家族、職員相互の連絡を密にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や看護師と一体となり、入居者の健康状態を相談しあいながら職員全員が把握するよう周知徹底を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃の通院時から病院関係者と情報の交換をしている。また、入院した際は入居者が安心できるように面会へ行き、病院関係者・家族と相談しながら退院に向けた支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については主治医・訪問看護・本人・家族等と話し合いながら全員で方針を共有しながら支援している。	重度認定の方は3ユニット全体では2名が継続入居している。契約時に終末期は医療機関で看取りを行う旨を説明し同意書を得ているが、医療行為を必要としない老衰の場合には事業所で看取ることも考えられるので、看取りケアについて研修を重ねている。	終末ケアに関するマニュアルは作成しており、今後、医療機関関係との体制作りに努め研修を継続し、ホームの現状、訪問看護師の意向、職員の決意等の把握に努めながら、十分なる検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から事故や急変時について、職員全員が救命講習を受講し、AEDの活用その他話し合い対応方法を確認している。また、24時間対応の訪問看護師とも連携しながら対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回の避難訓練を目標とし、近隣の協力を得ながら、年二回の消防士会いの避難訓練の他、自主訓練も行い避難方法や緊急通報設備の確認を行っている。訓練状況等は広報等にて地域へ配布し、防災への関心に繋げている。	スプリンクラー等の設備が設置されているほか、地震時、火災発生時の初期対応から避難誘導等の訓練を重ね、地域の方の参加を得るなど協力体制の構築に向け取り組んでいる。非常時の食料等も備蓄している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩である事を念頭に置き、個々の介護度・性格・生活背景等を理解・把握した上で一人ひとりがどうしたいのかを考察しアプローチしている。	名称の呼び方は、本人等の意見を聞いて主に下のお名前に「さん」付けで呼ぶ方が多い。中には屋号の場合もある。その人らしさを常に考えたケアが展開できるようケースカンファレンスなどを有効に活用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃からコミュニケーションに重点を置いて実践している。着衣等に関しても季節に合った組み合わせや苦手な食材のメニュー変更なども本人に選んで頂くなどの対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味の読書・音楽・調理など個々の日常生活に合わせながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの意向や能力を把握した上で、時にはお化粧品なども支援し、本人らしさを促している。また、汚染した衣類を身に付けることのないよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々、準備から片付けまで役割を持ってもらい、一緒に行っている。また、味覚だけでなく視覚・嗅覚なども使って喜んで頂けるよう献立にバリエーションを付けている。	利用者の好みや力に応じて準備などは一緒に行い、あくまで自立食事で完食できるよう食器の位置や姿勢へ気配りし声がけをしている。時にはバイキング形式の食事、行事食等の提供や、利用者の嗜好により適宜別メニューでの提供とするなど、食事が進むよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取量の把握はチェック表にて全員が共有しており、不足している方には随時好む物を提供できるように配慮し、食事形態等も変更をかけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにより一人ひとりコミュニケーションを取り入れながら歯磨き・義歯洗浄等を見守りや、介助等にて対応を行っている、衛生保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握した上で、声かけやトイレ誘導を行い失禁やパット・リハビリパンツの使用量を減らすような工夫を行っている。	食後又は夜間での誘導など、個々利用者の個別的な特徴を捉えこまめに継続した対応を行い、出来るだけトイレでの排泄を目指し失禁やパット使用の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの状態を確認し、食事やおやつ等を工夫したり、水分補給をこまめに行うなどの対応をおこなっている。また、適度な運動や散歩なども取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴ではあるが、入浴剤を使用したり、希望に応じて日程の調整も行っている。コミュニケーションを大切にし、会話しながら入浴を楽しめるように配慮している。	週3回をめどの入浴となっているが、希望や体調等に応じて柔軟な対応となっている。入浴時は健康状態の観察とともに会話や歌を口ずさみながら楽しく入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し、自由に休息して頂いている。居室等の温度・衣類・布団の調整を行い、落ち着いて休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は個々にセットしており、二重のチェック体制を取っている。服薬状況や副作用についても、カンファレンスや申し送りを通じて、共有を行い、全職員で症状の変化や観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎食の準備や片付け、洗濯物たたみや、掃除など一人ひとりの役割がある。それ以外にも読書や歌、コーヒータイム等を楽しみながら気分転換が行えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を取り入れ、ベランダでの運動・職員と一緒に買い物や散歩・花火見物・温泉等の外出を季節を感じて頂けるように対応している。また家族との外出・外食の協力もいただき実施している。	日頃より庭の散歩やベランダでの日光浴、買い物等へ同行支援している。季節により花見や紅葉見物等のドライブや外食、カラオケに出かけたり、時には家族との外食や買い物へ出かけ、表情が明るくなって帰って来られるなど、楽しみの一つとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所にて厳重に管理しており、外出時やイベント時などで使用する際は、本人の希望を聞き購入できるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればいつでも電話を掛けられるように家族とも話し合い支援をしている。荷物が届いた際には、お礼の電話を掛けたり、手紙を送るなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁面装飾を創作品や行事の際の写真へ変更したり、室温等にも配慮している。その他にも、入居者に花を活けて頂くなどの心和む空間作りにも配慮している。	居間兼食堂等のフロアーが非常に広く、対面キッチンからは、職員の明るい掛け声が投げかけられるなど、落ちついた雰囲気の中にも笑顔の絶えない空間となっている。利用者はそれぞれ自分の好きな場所でくつろいだり、機能訓練や趣味活動等もできるスペースとなっており居心地良いように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの座席は、気の合う入居者で話しが出来るように、配置や間隔などを工夫している。また、窓から見える田園風景を眺めながら入居者同士で談話ができ、寛げるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の生活歴を尊重し、使い慣れた家具・仏壇・趣味の道具・家族の写真等を持ち込んで頂き、落ち着いて過ごして頂けるように工夫している。	その人らしさを考えたケースカンファレンスを活かし、使い馴れた小引き出しや椅子などのほか、家族写真や手紙、自作品などを飾り、ADLに応じて車椅子や杖を配置しており、安心、安全の確保への工夫がみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差部分にはカラーテープを貼るなどし、安全配慮の下、食事準備・片付け・モップ掛け・洗濯たたみ等を行って頂いている。		